

令和5年度 第10回 生産管理WG 議事要旨(案)

I.日 時: 2024(R6)年3月8日(金) 13:00~14:20

II.場 所: (一社)日本木造住宅産業協会 6階会議室+オンライン(ZOOM)開催

III.出 席 者: (敬称略、順不同、※印は ZOOM 参加): 下線は欠席

リーダー: 未定 主査: ※秋山(東洋大学名誉教授)

メンバー: 秋本(住友林業株)、杉山(ポラテック株)、鎌田(株)アルシーア、※工藤(近藤建設株)
※折笠(株)エー・エス・デー)、佐々木(株)LIXIL、清田(株)エヌ・シー・エヌ、氏居(新進建設株)
小川(株)細田工務店、※原口(住友林業株)、後上(株)カナイ、小山(株)ユニバーサルホーム
市川(株)ナイス、今倉(ジャパホームシールド株)、浜本(福井コンピュータアーキテクト株)
内山(株)エー・エス・デー)、小山(株)アンドパッド、高畠(株)アンドパッド

事務局: 小田嶋、松澤

(合計 11 名)

【報告・議事事項】

1. 前回議事録の確認

(資料1)

・読み上げ省略、修正意見無し。

2. 生産技術委員会 YouTube コンテンツ 2.29

(資料2)

・(小田嶋)施工管理チェックポイントマニュアル(第4版)については、書籍は好評で、在庫がなくなりそう。YouTube 視聴につながっていないので、そのあたりは今後の課題。

3. 業務報酬基準改定について

(資料3-1、3-2)

・(小田嶋)5年ぶりに告示が改訂される。3/1に開催されたオンライン説明会の資料を共有。
戸建住宅に関する略算表も見直しされた。
・(秋山主査)過去は、工事費の何%という計算方法があった。工事額の大きさからではなく、設計の時間数から算出できる算定方法を示している。

4. 富士教育訓練センターの取組みについて

(資料4-1、4-2)

・(小田嶋)富士 KKC にて、建設業に入職者向けに実施したアンケート結果を、国交省へ報告をした結果、国交省が文科省へ通知を出した。さらに、文科省は教育委員会へ、通知を出してくれた。
若者の建設業への入職者促進につながる取組となっている。
今年度出来なかったが、来年度は、15日間の技能講習を開催する予定となっており、詳細が決まり次第ご連絡をする。

5. CCUS の現状について

(資料5-1、5-2)

・(小田嶋)アイホンがカードリーダーの代わりに使えるようになった。住宅現場で利用できるか、問い合わせ中。

技能者・事業者・履歴蓄積も少しづつ増加しているが、処遇改善に向けた利用状況は進んでいない。

能力評価をしている技能者は少なく、93%は登録しただけの技能者(レベル1)となっている。

就業履歴も現場に蓄積環境がなく、技能者が現場に出向いていても蓄積できていない実態が、サンブ

ル調査で分かった。履歴の 86%は完工高 500 億円以上の大型現場に偏っている。

- ・(原口委員)関連会社の社員大工は CCUS と連携できるよう準備している。コムテックスのシステムを活用して、現場の入退場管理は実施している。
- ・(杉山委員)社員大工は登録しているが、活用できていない。外注の大工は大臣顕彰や建設マスター等で評価につなげている。
- ・(市川委員)CCUS には取組み出来ていない。
- ・(工藤委員)現場の入退場管理もできていない現状がある。
- ・(浜本 OB)何をいつまでというルールはあるか。
- ・(小田嶋)就業証明書で、CCUS に登録できるのが、今年の3月31日までとなっている。そのあとは、現場で CCUS に蓄積した履歴だけを認めることとしている。大型現場でしか蓄積できていない現状を考えると、現実的でない。

6. 2023 年度登録建築大工基幹技能者講習について (資料6)

- ・(小田嶋)今年度の受講者の実績は、83人。年々減少している。更新講習は WEB で可能となった。来年度、プラスより、講習参加の要望を頂いているので、10月に計画している。

7. 持続的な工務店経営のための事業継承パンフレットについて (資料7)

- ・(小田嶋)建築大工技能者等検討会で作成した成果物の一つ。会員企業にサンプルとして1部ずつ送付する。その他の成果物としては、大工向けの WEB サイトを公開する予定としている。

8. その他

- ・(折笠委員)紹介頂いた制度は、木造現場で浸透させるのは難しいが、どの様に若者を入職させるかが重要と考えている。
- ・(秋山主査)CCUS の登録環境は大型現場中心となっているなか、リフォームのような小さな現場での登録は難しそうと感じた。
- ・(秋本委員長)職人の処遇改善には、年収比較が直結していて分かり易い。社会的に開示が必要かどうかは議論が必要。出面管理では大型現場でも漏れが多い。出入りだけをカウントして、業務の評価にして良いか、問題もある。
- ・(原口委員)現場の近くを通過しただけで入場にならないように、通知が飛ぶようになっている。また、現場でどのぐらいの時間作業をしたら、入場としてカウントするか、議論している。CCUS には入場の履歴のたびに課金されるので、その連携がまだ出来ていない。
- ・(秋本委員長)職人や人口は減っていて、空き家は増えている。機械やシステムで埋め合わせられれば良いが、現状は職人の減少が早い。技能の伝承の取組みが必要。外国人を入れるだけでは解決にならない。それよりは、学校への働きかけや、年少のころから職業の魅力を伝えることが良い取り組み。富士 KKC のデータ見ても、大卒でも現場に出る方が多い。公共工事はこの30年間で減少している。会社ごとの取組みと、社会全体の仕組みと合わせて建設業の人材確保の取組みを考えていくことが必要。

以上

【次回 令和6年度第1回生産管理WG】

令和 6年 4月 12日(金)13:00~14:30 木住協 6 階会議室+ZOOM